

「土砂災害について」

滋賀県 米原市立伊吹小学校 5年 堀井 楓良

近年全国各地で、自然災害が起きています。

わたしたちが住んでいる日本は、外国にくらべて、台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山ふん火などの自然災害が発生しやすい国土です。

今年の夏、わたしたちの住んでいる町で、大雨による土砂くずれが起きて、けいかいレベル5のきん急安全確保が発令されました。そのときわたしは学校にいて、先生たちから、その様子を聞いて知りました。このような災害が身近で起きたのは、生まれて初めてだったので、「自分の家はだいじょうぶかな。」「けがをした人はいないかな。」と、とても不安で、こわくなりました。

後から知ったのですが、わたしたちが登下校をしている道にも、いろいろな大きさの石や流木、どろどろの土が流れこんでいき険な状態になっていました。その日は自分たちで下校することがむずかしかったので、家の人に学校までむかえにきてもらいました。帰るときには、小学校にたくさんの方がひなんしていました。

家に帰ってテレビをつけたら、いろいろな番組でわたしたちの住んでいる町の災害の様子が放送されていました。テレビの画面には知り合いや親せきの人たちの家の中に、水や土砂が流れこんで、ひどいひ害を受けている現場の様子がうつっていました。また大雨が降ると、ふたたび土砂が流れこんでくるかもしれないと思うと、不安な気持ちでいっぱいになりました。

ニュースや大人の人の話によると、今回わたしたちの町で起きた土砂災害は、地球温だん化で、伊吹山の雪がへって、鹿が冬をこすことができるようになったことが原因だそうです。鹿の活動はんいは広がっていて、どんどん鹿がはんしょくしてふえてしまい、たくさんの植物が食べられてしまったそうです。そうすると、ら地化がすすんでしまい、山が水をたくわえる力が弱まってしまい、水が流れやすくなって土砂くずれが発生しやすくなってしまうそうです。

市や県がいろいろなたいさくをしてくれて、山の砂防ダムにたまる土砂のてっ去や、一ふくろが約1トンもの重さがある石積みや、約30メートルしきつめて、少しでも土砂を受けとめられるように計画がねられているそうです。

まだまだこれから、台風のシーズンも来るので、ふたたび災害が起こるのではないかと心配しています。

そのような中でさらに、宮崎県でマグニチュード7.1の地震が発生しました。後続するさらなるきょ大地震の可能性が高まって、きょ大地震注意報が初めて発表されました。このような自然災害が多い今だからこそ、自分自身にできることを少し考えてみました。

まず自分でかん単にできることから始めようと思います。例えば、持ち出しぶくろの用意やきん急ひなん場所のかくにんをしておきたいです。また徒歩や自転車で移動することで二酸化炭素をへらしていきたいです。

毎日学校のうらの山道を、トラックが登って行き、土砂災害でたまった土砂を運んでいきます。いつも暑い中わたしたちのくらしを守るために土砂を運んでいて、とってもありがたいです。